



MORAMORA

マダガスカル通信 第4号 2022年10月15日

僕の活動を紹介します

Manao ahoana! これまで活動について書いてこなかったのですが、今号では僕がマダガスカルで何をしているのかを紹介したいと思います。みなさん、そもそも青年海外協力隊ってどんなことをしているかご存じでしょうか？僕は昔、全員開発途上国で井戸を掘っているのかな〜とテキトーなイメージを持っていました。実際は協力隊と一言で言っても、やっていることは人それぞれです。看護師、サッカー、パソコンインストラクターなど190以上の職種の中から一つを選び、各々の得意分野を生かして活動します。僕の職種は「小学校教育」。地域の小学校を巡回して授業をするのが主な要請（求められている活動）です。

僕は日本で小学校の教員をしてきました。都道府県の教育委員会に採用されると、自動的に学校やクラスが割り当てられ、自分のすべき仕事が決まります。しかし、協力隊はそんなに甘くなかった…。要請とCISCO（教育委員会のようなところ）に所属することは決まっていたのですが、それ以外は白紙。どこの学校に行くか、いくつの学校を回るか、何の教科を教えるかなど、すべてのことを自分で決める必要があります。裁量の大きさが協力隊の大変さであり、魅力でもある気がします。

僕はまず、いろんな小学校にアポなしで突撃するところから始めました。先生方に自分が来た趣旨を説明し、授業をしていいか相談します。当時はマダガスカル語がまったく話せず（今でも話せないけど）、ほぼ身ぶり手ぶりのみでやりとりしていました。今思えばそんな大胆なことよくやったな…。その後、試行錯誤をくり返し、週に5〜6校の小学校を巡回し、算数、理科、体育、音楽、図工、日本語の6種類の授業をするところに落ち着きました。

はじめてのアナラベ小学校

僕は去年の9月にマダガスカルに来たので、赴任から一年と少しがたちました。残りの任期は約5か月。5か月間の個人的な目標は、①帰国後、日本の子どもたちにどのようにマダガスカルについて伝えるかを今のうちに考え、テーマ探しと材料集めをする、②訪問する学校の数を増やし、これまで子どもたちの反応がよかった授業を行う、の2つです。

いざ訪問先を増やすべく、近所の人たちに聞きこみしていると、タクシーブ
ルス（乗り合いバン）で30分ほどの「Analabe」という地域に、これまで行ったことのない小学校があるという情報を入手しました。さっそく訪れ、先生方と交渉したところ、快く授業をさせてもらえることになりました。手始めに、体育で十八番のじゃがいもリレー（じゃがいもをスプーンの上に乗せて運びリレー）をすることにしました。「さぞかし盛り上がるやろな〜」とわくわくしながら始めたのですが、見知らぬ外国人がやってきていきなり仕切りだしたせいか、子どもたちは緊張でガチガチでした。早く仲良くなりたいな〜。



セクリめぐり

小学校教育隊員としての活動について書いたので、近所の^{セクリ}sekoly (学校) の中を案内したいと思います。日本の学校と比べながら読んでもらえるとうれしいです。

門 木の板を貼り合わせてできていて、鎖で戸じまりされています。日本のように頑丈で、傍に監視員さんがいて…とはいきませんが、子どもたちを危険から守ろうという思いは伝わってきます。

校庭 中央部分は土ですが、周りに芝生の場所があり、休み時間、子どもたちが寝っ転がって談笑しています。大学生みたい…。校庭の真ん中には国旗が掲揚されています。祭りなどのイベントがあるときは、全校児童が校庭に集まります。イベントの開会式では、みんなで国歌を歌い、児童代表が国旗をあげさげします。

教室 子どもたちの席は長机と長いすです。電気は来ていません。以前、日本の現籍校と交流したとき、プロジェクターで大きく映し出すことができないので、僕は充電したパソコンを持って子どもたちの近くをうろろしていました。

文房具 家から持ってくる物は、ノート、定規、コンパス、ミニ黒板（考えたり発表したりするときに使う）、チョーク、スポンジ（チョークを消すのに使う）、ボールペンといったところ。鉛筆は使わず、ボールペンでノートに文字を書きます。消せなくて大丈夫なのかな～とはじめは心配していたのですが、その分集中して書くのか、書きまちがえる子どもが少ない気がします。教科書は貸し出し制で、学校に保管されています。全員分はなく、4～5人で一冊を見ます。

特別教室 音楽室や家庭科室といった特別教室はありません。そもそも家庭科という教科が存在しませんが、みんなふだんから家族といっしょに料理を作っているのです。かまどで火を起こしたり、野菜を切ったりするのはお手の物です。

子ども 日本と一番変わらないのは子どもたちのやる気かもしれません。授業中、先生の質問に「Za! (私!)」と言いながら競うように手を挙げます。「勉強したい!」という気持ちが伝わってきて、授業をしていると僕までうれしくなってしまう。



長谷川 太郎

出身：大阪府 職業：小学校教諭

協力隊に参加した理由：帰国後、日本の子どもたちに世界のことを伝えるため。

隊次：2021年度1次隊 職種：小学校教育 任地：アンズズルベ

活動内容：5～6校の小学校を巡回し、各校の先生といっしょに算数、理科、体育などの授業を行う。

